

令和8年度 第1回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議

次 第

日時 令和8年6月26日（金）13時～

場所 麻生区役所第2会議室

1 開会

2 議事

（1）第7期麻生区地域福祉計画の進捗状況及び令和7年度評価、第7期の振り返りについて **資料1-1～1-3**

（2）第8期麻生区地域福祉計画の策定について

①第8期川崎市・各区地域福祉計画策定に向けた方向性と基本的な考え方について **資料2-1～2-2**

②第8期麻生区地域福祉計画 策定スケジュールについて **資料3**

③麻生区の現況（統計データ、川崎市地域福祉実態調査結果）について **資料4-1～4-3**

④第8期麻生区地域福祉計画の基本方針（案）について **資料5**

⑤第6期川崎市地域福祉活動計画について **資料6**

⑥独自ツールの作成について **資料7**

（3）その他

・『人生100年時代をアクティブに！“これからの私”を考える』について

・今年度の会議スケジュールについて

第2回 令和8年7月31日（金）13時から 第1会議室

第3回 令和8年9月25日（金）13時から第2会議室

第4回 令和9年2月5日（金）13時から 第2会議室

3 閉会

＜配布資料＞

- ・委員名簿
- ・座席表
- ・あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱
- ・【資料1－1】 第7期麻生区地域福祉計画進捗状況
- ・【資料1－2】 第7期各区地域福祉計画における評価に係る考え方について
- ・【資料1－3】 第7期麻生区地域福祉計画・令和7年度評価
- ・【資料1－4】 第7期麻生区地域福祉計画の振り返り(令和6～7年度)
- ・【資料2－1】 第8期川崎市・各区地域福祉計画策定の方向性
- ・【資料2－2】 第8期地域福祉計画策定に向けた基本的な考え方
- ・【資料3】 第8期地域福祉計画策定スケジュール
- ・【資料4－1】 麻生区の現況
- ・【資料4－2】 第7回川崎市地域福祉実態調査 報告書 麻生区版
- ・【資料4－3】 麻生区における地域福祉に関する課題
- ・【資料5】 第8期麻生区地域福祉計画の基本方針(案)
- ・【資料6】 第6期地域福祉活動計画(社協計画)について
- ・【資料7】 麻生区地域福祉計画の独自ツールについて
- ・【参考資料】「令和8年度 麻生市民館 市民自主学級 人生100年時代をポジティブに」

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議委員

(敬称略、順不同)

	区 分	団体名など	氏 名	備 考
1	学 識	田園調布学園大学	村井 祐一	
2	区 民	公募区民	植木 昌昭	
3	団体推薦	麻生区町会連合会	高橋 慶子	
4	〃	NPO 法人あさお市民活動サポートセンター	岡部 俊幸	
5	〃	麻生区民生委員児童委員協議会	森 眞澄	
6	〃	川崎市医師会麻生区医師会	吉松 昭彦	
7	〃	麻生区民生委員児童委員協議会 主任児童委員部会	吉垣 君子	
8	〃	麻生区地域包括支援センター連絡会議	玉野 朋美	
9	〃	麻生区地域自立支援協議会	平井 祐樹	
10	〃	麻生東地区社会福祉協議会	佐野 幸子	
11	〃	柿生地区社会福祉協議会	依田 明子	
12	関係機関	麻生区社会福祉協議会	小林 正樹	

事務局名簿

	所 属 ・ 役 職	氏 名	備 考
1	地域みまもり支援センター所長	藤原 亮子	
2	地域みまもり支援センター副所長	大塚 吾郎	
3	地域ケア推進課長	雨宮 米美	
4	地域支援課長	梅澤 直美	新
5	児童家庭課長	大場 高敏	新
6	高齢・障害課長	岩丸 和則	新
7	保護課長	大町 法久	
8	衛生課長	江口 麻樹	新
9	保育所等・地域連携担当課長	前崎 牧子	
10	危機管理担当課長	青柳 努	
11	企画課長	田島 歳宜	
12	生涯学習支援担当課長	宮島 登	新
13	地域ケア推進課 企画調整係長	池田 賢一	
14	地域ケア推進課 企画調整係 主任	麻生 淳一	
15	地域ケア推進課 企画調整係	荒井 美佳子	新

令和8年度 第1回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議
座席表

(敬称略、順不同)

		吉垣 君子	森 眞澄	吉松 昭彦	村井 祐一		
		●	●	●	●		
佐野 幸子	●					●	高橋 慶子
依田 明子	●					●	岡部 俊幸
小林 正樹	●					●	平井 祐樹
植木 昌昭	●					●	玉野 朋美

●	●	●	●
---	---	---	---

地域ケア推進課
雨宮

地域みまもり
支援センター
大塚

地域包括ケア推進室

●	●	●
---	---	---

地域ケア
麻生

地域ケア
池田

地域ケア
荒井

傍聴席	傍聴席
-----	-----

【オンライン出席】

地域支援課長
児童家庭課長
高齢・障害課長(代理)
衛生課長
保護課長
保育所等・地域連携担当課長
危機管理担当課長
企画課長 (代理)
生涯学習支援課長

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱

(設置)

第1条 この要綱は、あさお福祉計画（以下「福祉計画」という。）及び地域包括ケアシステムに係る取組を推進するため、あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議（以下「会議」という。）の運営に関し、必要な基本事項を定める。

(目的)

第2条 区長は、福祉計画及び地域包括ケアシステムの推進に関し、次に掲げる事項について、会議の委員の意見を求める。

- (1) 福祉計画の策定及び変更に関する事
- (2) 福祉計画の進捗状況に関する事
- (3) 麻生区における地域包括ケアシステムの推進及びネットワーク構築に関する事
- (4) 前各号に定める事項の他、会議で必要と認める事項

(委員)

第3条 会議の委員は、次に掲げる者に就任を依頼する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体代表者
- (3) 公募市民

2 前項の委員のほか、特別及び専門的事項に関する意見を求めるため、区長において必要があると認めるときは、推進会議に臨時の委員を置くことができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、あさお福祉計画の計画期間と同一とする。ただし、再任を妨げない。

(庶務)

第5条 会議の庶務は、麻生区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）地域ケア推進課において処理する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成28年10月14日から施行する。

(旧要綱の廃止)

- 2 あさお福祉計画推進会議開催運営等要綱（２６川麻地保第１２４１号）は廃止する。
（あさお福祉計画推進会議開催運営等要綱の廃止に伴う経過措置）
- 3 この要綱の施行の際、現に前項の規定による廃止前のあさお福祉計画推進会議開催運営等要綱第３条の規定により就任を依頼されたあさお福祉計画推進会議の委員である者は、この要綱の施行の日に第３条の規定により会議の委員として就任を依頼されたものとみなす。

附 則

この要綱は、平成３０年２月１９日から施行する。

附 則

この要綱は、平成３１年４月１日から施行する。

取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	数値で把握することが可能な取組結果（R7）	令和7年度取組内容の実績等
1	地域活動に関わる人材の発掘と育成	地域支援課 生涯学習支援課 企画課 地域振興課	区社会福祉協議会 麻生市民交流館やまゆり 麻生区ソーシャルデザインセンター	認知症サポーター養成講座：19回、710人 すくすく子育てボランティア養成教室：修了者0人 すくすくボランティア活動参加者：延べ167人 健康づくりボランティア養成教室：修了者10人 食生活改善推進員養成教室：修了者12人 シニアの社会参加支援：5回 52人 市民エンパワーメント研修：4回 21人 識字ボランティア研修：10回 157人 市民自主学級「新しい！こ隠居スタイルを目指して」：10回 275人 — 相談窓口検索サイト担当者会議：5回開催 福祉まつりへ「はじめての一步」として、社協、SDC、やまゆりが共同で出展。立ち寄った区民7人	認知症サポーター養成講座：22回、755人 すくすく子育てボランティア養成教室：修了者6人 すくすくボランティア活動参加者：延べ186人 健康づくりボランティア養成教室：修了者10人 食生活改善推進員養成教室：修了者11人 シニアの社会参加支援：5回 54人 市民エンパワーメント研修：3回 75人 識字ボランティア研修：各1回 昼15人 夜8人 市民自主学級「愉しもう！新しいこ隠居スタイル」：10回 111人 「高齢者も楽しく暮らすために」：3回 77人 — 相談窓口検索サイト担当者会議：1回開催	・健康づくりボランティアと食生活改善推進員養成教室を合同で実施した。実際にボランティアとして活動している人との交流場面を設定する事で、活動参加のきっかけとなるよう改善した。また、継続的な育成として、学習会において転倒予防等に関する情報提供を行った。 ・認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解を深め、地域の中で見守るサポーターを養成した。今年度は特に小学校と生活に関連する企業等に実施し、若者や直接高齢者に関わっている人への理解を深めた。 ・シニアの社会参加支援について、「シニア向けe-sports入門講座」を実施し、年齢、性別等に関係なく認知機能低下の予防に活用できる内容を選び、これからの生活に取り入れられる選択肢を提示した。 ・エンパワーメント研修について、「ボードゲームファシリテーター養成講座」を実施し、地域の各世代のコミュニティ交流事業について、より活性化できる内容を提供できる人材を育成し、受講者による地域でボードゲームを活用した事業を支援した。 ・識字ボランティア研修について、昼夜クラス各1回ずつのスキルアップ研修を行い、識字学習の質の向上に寄与した。 ・NPO法人麻生区ソーシャルデザインセンターとの協働により、地域のつながりづくりや新たな担い手創出を目的に、「100人カイギ」や「ドリームミーティング」を開催するとともに、区民まつりや書初め教室等において、中学・高校、大学生約85人がボランティアとして参加した。 ・相談窓口検索サイト担当者会議を、検索サイトの向上・充実に向けて1回実施した。
2	地域活動参加につなげる「ちいきのちからシート」の活用	地域ケア推進課 地域支援課	町会・自治会 地域で活動する団体	「ちいきのちからシート」実施回数：1回 健康フェスin白山	「ちいきのちからシート」実施回数：1回 長沢小学校4年生（総合授業）	・こども文化センター等、関係団体向けにこれからの活動を考えるにあたって手掛かりを掴むために、ちいきのちからシートの活用案内を行った。また、長沢小学校4年生の総合の授業で活用し、保護者向けにオンラインで実施した。
3	地区カルテを活用した地域づくり	地域ケア推進課 地域支援課	町会・自治会 民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター	HPアクセス数：114.4回/月	HPアクセス数：117.5回/月	・地域情報交換会や民生委員児童委員に対し共通フェイスシートを配布し、地域に関する情報の共有を行った。また、各種統計調査の結果を反映し情報更新の作業を進めた。
4	学生ボランティア活動の促進	地域ケア推進課 地域支援課	区内大学 認知症カフェ等	学生ボランティアに関する講義：3回 学生ボランティアマッチング数：52件	学生ボランティアに関する講義：3回 学生ボランティアマッチング数：69件	・田園調布学園大学の授業内で認知症サポーター養成講座や行政社会福祉職講義、地域の福祉活動についての講義を通じて、地域におけるボランティア活動の意義を伝え、学生の福祉マインドの醸成に寄与した。
5	地域活動等に対する活動支援	地域ケア推進課 高齢・障害課 衛生課	町会・自治会 民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター 老人クラブ	—	—	・公園体操や公園ウォークなど地域住民主体の地域活動等に対して、活動の継続に向けた関係者間の役割分担の調整やなどの支援を行った。 ・地域の交流・仲間づくりの環境醸成に向けて、民生委員・児童委員、生活支援コーディネーター、町内会・自治会等と情報共有、連携促進を図った。 ・地域住民との交流を促す活動について、地域包括支援センターや老人クラブと連携し、情報共有を行った。 ・「川崎市行事における食品の提供に関する取扱要綱」に基づき行事開催届届受理する際に、食品の衛生の取り扱い等について助言指導を実施。
6	子育てグループへの活動支援	地域支援課 地域ケア推進課 保育所等・地域連携担当	子育てグループ 子育てボランティア 区社会福祉協議会	支援団体：2団体、対象者総数：84人 子育てボランティア派遣数：51人 出張講座：4回 サロン訪問：6回 子育て自主グループ訪問：14か所	子育てグループ支援：1団体、6回実施、対象者のべ数：74人 子育てサロンでの育児相談：8か所、実施：計31回実施 子育てボランティア派遣数：46人 出張講座：10回 サロン訪問：16回 地域子育て支援センター8か所 子育て自主グループ訪問：2か所	・子育て自主グループ「ウインナーキッズ」の活動支援として、会場・おもちゃ等物品を貸し出した。保健師1人も毎回参加し、育児相談や安全環境の整備、保育を行った。土日のイベント開催における相談を受け、会場やグループ運営について助言した。 ・子育てサロンに出向き、育児相談を実施した。サロンからの要望に応じてミニ講座も実施している。 ・こども文化センターの館長会にて事業周知を実施。広報リーフレットを各子育てグループや子育てサロン等へ配布。新たに1人ボランティア登録を行った。 ・出張講座は、こども文化センターで3回、子育てサロンでは3回、他4カ所で実施した。 参加者の相談を受けたり、地域の子育て支援の広報を行うとともに、周辺地域の地域の子育て世帯のニーズやこども文化センター、子育てサロンの利用状況や課題についての把握ができた。 ・自主グループ実施状況確認のため活動日に訪問し、広報や出張講座の案内をした。 ・地域子育て支援センターに出向き、利用状況など聞き取り把握していった。 ・新しくできたサロンに地域支援課職員と共に訪問。
7	市民提案型協働事業による地域活動団体との協働	企画課	地域で活動する団体	市民提案型協働事業採択団体数：4団体	市民提案型協働事業採択団体数：4団体	・地域課題の発見と解決を図り、より住みよいまちづくりを推進することを目的に、地域の団体と協働して提案事業に取り組んでいる。提案事業の進捗状況及び適切な実施の確認のため、今年度事業の中間報告及び今年度事業実施の振り返りを行った。
8	公園・街路樹等の愛護活動支援	道路公園センター	公園緑地愛護会 街路樹等愛護会 管理運営協議会	公園緑地愛護会：49団体 街路樹等愛護会：19団体 管理運営協議会：75団体	公園緑地愛護会：49団体 街路樹等愛護会：23団体 管理運営協議会：75団体	・町内会や自治会、公園利用者、市民団体、その他法人等の公園等ボランティアによる公園緑地及び街路樹等の日常的な維持管理によりまちの美化が保たれた。 ・公園緑地等の維持管理に加え、市民との協働による地元管理運営の推進によって、市民自治の確立による健全な地域コミュニティの発展育成の場の創出が推進された。

取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	数値で把握することが可能な取組結果（R7）	令和7年度取組内容の実績等
9	健康づくりの増進	地域支援課 地域ケア推進課	地域包括支援センター 生活支援コーディネーター 昭和音楽大学	生活習慣病予防事業： 「野菜ばくばく講座」 10組 食育講演会： 『防災講演会』 24人 あさおの保健室：6回442人 公開講座「ロングライフコンディショニング」：4回87人 地域の催しでの健康測定会：3回141人 わくわくプラザを利用する小学生を対象とした健康講話：4か所207人	生活習慣病予防事業：23組 あさおの保健室：6回333人 公開講座「ロングライフコンディショニング」：4回105人 地域の催しでの健康測定会等：4回258人 わくわくプラザを利用する小学生を対象とした健康講話：4か所232人 音楽療法特別講座（昭和音楽大学共催）：114人	・生活習慣病予防事業として、子育てフェスタに参加している親子を対象に骨つくりのクイズやレシピを配布した。 ・長寿日本一記念事業として、麻生区内スポーツ関連施設5か所と連携して健康づくりに関する普及啓発を実施した。施設のスペースを使い、健康チェックやその結果に応じた健康相談・情報提供を行う「あさおの保健室」を6回、スポーツジムのインストラクターによる公開講座「ロングライフコンディショニング」を3回実施したほか、麻生区健康情報ポスターを毎月発行し、施設内に掲示し情報発信した。 ・わくわくプラザでは、「早寝・早起き・朝ご飯」をテーマに健康教育を行い、健康的な生活習慣の獲得や維持を促した。 ・昭和音楽大学と共催で、音楽を通じたストレス対処等のセルフケアを学べる講座を実施した。
10	健康づくり・介護予防グループへの活動支援	地域支援課	地域包括支援センター あさお運動普及推進員の会 公園ウォーク推進委員会	介護予防講座の実施 区内5地区で実施 地域で活動する団体等での出前講話 69回（2,209人）	健康づくり・介護予防を目的に活動する団体の後援2団体 地域で活動する団体等での出前講話 71回（1,221人）	・あさお運動普及推進員の会と公園ウォーク推進委員会の活動を後援した。また、公園体操をはじめとする地域の活動に出向き、インフルエンザや熱中症の予防などの講座を実施した。
11	食生活改善推進員・配食等ボランティアへの活動支援	地域支援課 衛生課	食生活改善推進員	学習会支援：9回 115人 配食ボランティア支援：3回 64人 配食ボランティア団体に対する衛生教育：9団体 127人	学習会支援：11回 131人 配食ボランティア支援：3回 72人 配食ボランティア団体に対する衛生教育：6団体 70人	・食生活改善推進員の継続的な育成として、学習会において区課題等を共有し、食に関する情報提供を行った。また、配食ボランティアに対し介護予防の食に関する情報提供を行った。 ・区内の配食等ボランティア9団体から、会食活動、配食活動及びミニデイサービスの活動予定が提出された。これら団体に衛生教育の案内通知を発出し、各団体の実情に合わせながら順次衛生教育等を実施。
12	様々な媒体を用いた保健福祉に関する情報発信	全課	—	市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信：86件 麻生区役所企画課Xアカウントにおける保健福祉情報の発信：172件	市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信：93件 麻生区役所企画課Xアカウントにおける保健福祉情報の発信：171件 地域包括ケアシステム講演会の開催：約150人	・窓口でのチラシ・リーフレットを活用した案内の他、市政だより、区ホームページ、SNS（X）、イベント、会議、ネットワーク等で、区民や関係者に地域の保健福祉に関する情報を発信した。 ・「長寿日本一～その先へ～」の企画では、区民まつりや福祉まつりでブースを設置し、自己肯定感を考えるきっかけとして「自分自慢」について意見を募集し、併せて保健福祉に関する情報を提供した。 ・市政だより麻生区版において、地域包括ケアに関する広報として7月号に「民生委員」の特集記事を掲載した。 ・麻生区・大学 公学協働ネットワークを活用した情報発信を実施した。 ・あさおSDGと共催で若者の居場所と本音について当事者等が語る講演会を開催した。
13	子育て情報の発信	地域ケア推進課 地域支援課 児童家庭課 保育所等・地域連携担当	子ども関連ネットワーク会議	きゅっとハグあさお発行部数：5,000部 ちびっこおでかけMAP発行部数：11,000部 母子健康手帳交付時の情報提供 母子手帳交付数：1,039人 直営健診実施時の情報提供 1歳6か月児及び3歳児健康診査受診数：1,874人 ホームページ掲載 市政だより掲載 10回（再掲） 地域支援情報おたより発行 12回	きゅっとハグあさお発行部数：4,300部 母子健康手帳交付時の情報提供 母子手帳交付数：1,098人 直営健診実施時の情報提供 1歳6か月児及び3歳児健康診査受診数：2,063人 ホームページ掲載 市政だより掲載 9回 地域支援情報おたより発行 12回	・「子育てガイドブック きゅっとハグあさお」を改訂し、窓口及び関係各所に配架した。 ・区内子ども関連施設のイベントやおたよりを区HPへ掲載し、情報発信を行った。 ・区役所及びイオンに設置している子ども情報コーナーにおいて、毎月おたよりを配架し、子ども関連のお知らせ等の情報発信を行った。 ・「かわさき子育てアプリ」のプッシュ通知を活用し、子育てイベント等の情報発信を行った。 ・母子健康手帳交付時は、「きゅっとハグあさお」「かわさき子育てガイドブック」その他の妊娠出産育児に関するガイドブック等を配布。また「かわさき子育てアプリ」を紹介した。 ・1歳6か月児健診では、食事・運動と公立保育園・地域子育て支援センターの情報、かわさき子育てアプリを紹介。3歳児健診では、食事・運動の子育て情報を紹介した。 ・保育園のイベント情報を窓口に掲示し、情報発信を行った。 ・保育所利用申請に用いる「利用案内」の英語版を利用し、必要な世帯に配布した。 ・ホームページ・市政だよりのほか「かわさき子育てアプリ」の【お知らせ】欄の活用をした。 ・「ジモイ川崎」を活用し子育て支援の広報を行った。 ・子育て支援申し込みの際にメールでの子育て情報の送付の希望の有無を確認し、希望のあった保護者に毎月の地域支援情報おたよりや地域のイベントのお知らせを送付した。（登録58件）
14	高齢者や障害者が安心して生活するための制度や知識の普及啓発	高齢・障害課 地域支援課	地域包括支援センター 障害者相談支援センター	冊子「いつまでもいきいきと暮らすために」の更新 1,500部増刷・配布	冊子「いつまでもいきいきと暮らすために」の更新 1,500部増刷・配布	・電話、来所相談等で健康づくり・介護予防に関する相談に応じ、適宜それぞれの状況に合った情報を提供した。適宜、高齢者福祉のしおり等の冊子や資料活用して説明を行った。 ・冊子「いつまでもいきいきと暮らすために」を地域包括支援センターなどとも協力して地域住民に配布し、地域活動への参加を促した。
15	感染症・食中毒予防の普及啓発	衛生課 地域支援課	区医師会 区薬剤師会 区食品衛生協会	—	—	食中毒予防に係る普及啓発を実施した。 ・掲示物等を活用した広報（懸垂幕・保健所入口・衛生課窓口） ・ブース展示を活用した広報（備えるフェスタ） ・衛生教育や講演などを活用した広報（配食ボランティアへの広報、食品衛生責任者実務講習会あいさつの場や食品衛生指導員研修会の場を活用した広報） ・その他、食品衛生協会と連携した食品関連事業者向けの広報（食品衛生情報の掲載や区役所広場でのリーフレット、ポケットティッシュ配布） 感染症予防に係る普及啓発を実施した。 ・区役所ホールによるデジタルサイネージ及び衛生課窓口におけるブース展示 ・区総合防災訓練でのブース出展 ・「今、何の病気が流行しているか！」を区内医療機関15施設に送付、区役所内で4か所に掲示することに加え、Xを活用した情報発信 ・地域課題対応事業の一環として新百合ヶ丘総合病院 医学健康講座と共催により感染症等講演会を3月14日に開催した。

取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	数値で把握することが可能な取組結果（R7）	令和7年度取組内容の実績等
16	子ども・子育てに関する相談支援体制の充実	地域支援課 児童家庭課 高齢・障害課 保護課 保育所等・地域連携担当 学校・地域連携担当	保育所 地域子育て支援センター 児童家庭支援センター 地域療育センター 子ども発達・相談センター	専門的な相談：60回 専門的な教室：15回 状況把握のための母子世帯に対する訪問調査実施回数：月平均15.5回(年間187回) 大きくなあれ相談会：6回開催 子育てなんでも聞いてみよう！：15件 オンラインおしゃべり会：9回開催	専門的な相談：60回 専門的な教室：12回、総参加数27人 状況把握のための母子世帯に対する訪問調査実施回数：月平均11.8回(年間142回) 大きくなあれ相談会：6回開催 子育てなんでも聞いてみよう！：8件 オンラインおしゃべり会：9回開催	・発達の遅れが疑われる児への関わり方を学ぶ教室を3回1コースで4コース計12回実施した。（1コースは参加者が少ないため開催せず。）教室では、保健師・保育士・心理職・言語聴覚士等多職種で児の発達の状況を見立て、教室参加後に必要な相談先へと繋げた。 ・4月入所に向けた申請受付期間の前に個別相談会を実施し、世帯状況に応じた案内を行った。 ・子どもや子育てに関する市民からのニーズを訪問調査や面接等で聴取し、地域支援課や児童相談所等関係機関をはじめ、関係部署や関連団体と必要に応じて連携協働した。また、関係部署や関連団体とのカンファレンスや事例検討にも積極的に参加した。 ・地域子育て支援センターみなみゆりがおかで地域支援課の心理士と公立保育園のコーディネーターと相談会を実施。発達や生活習慣、母のメンタルヘルスなど多岐にわたった相談を受けた。 ・子育てなんでも聞いてみよう！はロゴフォームから相談を受け付けて電話・メール・オンラインでそれぞれの専門職が対応した。必要に応じて地域支援課と連携した。 ・宮前区、多摩区と共催でオンラインでのおしゃべり会を実施。プレパパ・ママも対象としており、月齢の小さいお子さんの両親の参加が多かった。子育てサロンなどでの直接の広報が効果的だった。 ・学校や教育委員会事務局と密に連携を取りながら、電話や来庁者の教育相談への対応・支援を行った。
17	高齢者に関する相談支援体制の充実	高齢・障害課	地域包括支援センター	—	—	・電話相談や来所相談に対応する際には、相談者のお話を丁寧に傾聴し、状況を把握した。そのうえで、地域包括支援センターや関係窓口につなぐことが必要と判断される場合には、各機関の役割や対応可能な支援内容を説明し、適切な窓口の案内を行った。
18	障害者に関する相談支援体制の充実	高齢・障害課	障害者相談支援センター	相談支援調整会議：月1回	相談支援調整会議：月1回	・北部地域支援室、障害者相談支援センター職員と協働でGSV（グループスーパービジョン）の手法を活用した事例検討を行い、支援方法等に関する協議や計画相談支援等の質及び充実に関して協議した。アンケート実施し次年度は、指定特定相談支援事業所の参加も促し、更なる強化につなげていく。 ・事業所連絡会では、参加者が減ることから、多摩区と合同開催することで、参加者数の確保と区の垣根を超えての連携につながった。GWの中で指定特定の主任相談支援専門員にも一部役割を担ってもらった。 ・事業所連絡会では児童や高齢分野の支援者との意見交換ができ、特に高齢分野との継続的な連携が必要との機運が高まった。
19	健康で快適な暮らしを確保するための相談支援体制の充実	衛生課	—	ねずみや衛生害虫等に係る苦情・相談件数：ねずみ120件、衛生害虫等：266件 両親学級等衛生的な住環境に関する講習会：計20回 414人	ねずみや衛生害虫等に係る苦情・相談件数：ねずみ136件、衛生害虫等：354件 両親学級等衛生的な住環境に関する講習会：計24回 533人	・ねずみや衛生害虫等に係る苦情・相談が寄せられた際には、必要に応じ関係部署と連携し、解決に向け対応した。また、結核、エイズ等の感染症についても患者やその他区民から寄せられた相談に対して適切に対応した。 ・令和7年度は、両親学級の高齢者の会合でも衛生的な住環境に関する講話を行った。 ・区役所ロビーで健康で快適な住まいと住まい方に関するパネル展示を実施した。 ・X（旧ツイッター）にて、健康リビングに関する啓発を実施した。 ・庁舎案内表示板にて、ヒートショックや換気について放映し啓発を実施した。
20	権利擁護への対応の充実	高齢・障害課 地域支援課	児童家庭支援センター 地域療育センター 子ども発達・相談センター 地域包括支援センター 障害者相談支援センター 麻生区あんしんセンター	通報件数： 障害者に対する虐待：49件 高齢者に対する虐待：100件 市長申立：1件（高齢） 区内小中学校訪問：小学校16校、中学校8校 乳幼児虐待予防事業スーパーバイス研修：4回 要保護児童対策地域協議会スーパーバイス研修：2回 要対協研修：小学校1校	通報件数： 障害者に対する虐待：50件 高齢者に対する虐待：71件 市長申立：1件（高齢） 区内小中学校訪問：小学校16校、中学校8校 乳幼児虐待予防事業スーパーバイス研修：6回 要保護児童対策地域協議会スーパーバイス研修：3回 要対協研修：小学校5校 中学校1校 こども文化センター2か所	・地域包括支援センターや相談支援センター、麻生警察署との連携を密に相談や通報への迅速な対応・支援を行った。 ・虐待対応の中で成年後見の利用が必要と思われる対象者に対し関係機関と連携し、制度説明等利用支援を行った。親族による申立てについては川崎市成年後見支援センターや麻生区あんしんセンター、法テラスを案内するなど連携して相談対応を行った。 ・毎月実施している高齢者支援カンファレンスに障害者相談支援センターや北部在宅支援室等が定期的に出席している。複合化した課題に対して、包括的相談支援の実現のため事例を通じた役割分担や連携の在り方について検討を行った。 ・育児負担のある保護者や当該児童の相談、学校等関係機関からの相談、通告に適宜応じた。 ・対応のスキルアップのため、乳幼児虐待予防事業スーパーバイス研修、要保護児童対策地域協議会スーパーバイス研修を課内職員（一部外部職員含む）向けに実施した。 ・主任児童委員の主催で、5～6月の期間中に区内全小中学校訪問を実施し、情報交換や共有を行った。 ・個別の要支援児童等への対応について、個別支援会議を随時実施した。 ・区内の学習支援教室、こども食堂、寺子屋等関係機関を訪問し、子どもの居場所としての取組や子どもたちの過ごし方について調査した。また、要保護児童対策地域協議会での連携についても協力を依頼した。 ・小・中学校、こども文化センター、わくわくプラザで要対協研修を実施。地域支援課の支援内容について知っていただく機会となり、今後連携して支援していくための下地づくりを行えた。

取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	数値で把握することが可能な取組結果（R7）	令和7年度取組内容の実績等
21	専門機関等と連携した相談支援体制の強化	全課（地域みまもり支援センター）	地域包括支援センター 障害者相談支援センター 児童家庭支援センター 地域療育センター 子ども発達・相談センター	要保護児童対策地域協議会実務者会議 代表者部会：1回（8月） 連携調整部会：9回（毎月）	要保護児童対策地域協議会実務者会議 代表者部会：1回目（9月）2回目（2月） 連携調整部会：9回（毎月）	・地域の人と顔が見える関係づくりを進めるとともに、把握した様々な課題について相談支援機関との連携を強化し、地域課題への支援体制を構築するため、次の会議を開催した。 ・要保護児童対策地域協議会実務者会議の代表者部会について、令和4年度以降の流れを受けて「権利と権限について考える～子どもの声を聴ける地域づくり～」を年間テーマに実施。第1回目は共同親権について、弁護士の方による講義を実施した。第2回目は委員としても参加していただいている白山愛児園の施設見学と児童養護施設での権利の取り組みについて講義を実施した。地域で子どもの権利を守るために何ができるのか、関係機関における意識醸成の一助とした。
22	認知症に関する普及啓発	地域支援課	あさおオレンジプロジェクト 地域包括支援センター 区社会福祉協議会	あさおオレンジプロジェクト：3回 そなえる認知症I（講演会）：39人参加 そなえる認知症II（講演会）：46人参加 麻生図書館・柿生分館パネル展示：2回 百合丘小学校図書室展示：1回 認知症サポーター養成講座：17回（再掲） RUNTOMO+あさお実行委員会へ出席：9回 キャラバン・メイト連絡会：2回 認知症にやさしいまち表彰：9店舗 認知症フォローアップ講座：1回	あさおオレンジプロジェクト：3回 そなえる認知症I（講演会）：22人参加 そなえる認知症II（講演会）：24人参加 麻生図書館・柿生分館パネル展示：2回 百合丘小学校図書室展示：1回 認知症サポーター養成講座22回（再掲） RUNTOMO+あさお実行委員会へ出席：9回 キャラバン・メイト連絡会：2回 認知症にやさしいまち表彰：3店舗 認知症フォローアップ講座：1回 （区内郵便局員向け、参加者11人）	・あさおオレンジプロジェクトの実施により、麻生区の認知症施策の検討を行った。 ・キャラバン・メイト連絡会を実施し、市内キャラバン・メイトへの情報提供及び認知症サポーター養成講座開催に向けての情報交換、キャラバン・メイトの活動の活性化に向けて話し合いを行った。 ・図書館（麻生図書館、柿生分館）、図書室（南百合丘小）での展示により、市民に対し、認知症の方への理解を進めた。 ・市民向け認知症サポーター養成講座のフォロー講座を開催した。（そなえる認知症1・2）：2回（2月2日、2月25日）
23	認知症訪問支援事業	高齢・障害課	地域包括支援センター 認知症サポート医 訪問看護師 ケアマネジャー	認知症訪問支援チーム員会議：7回 （定例6回、臨時1回） 令和6年度新規対象者：5件	認知症訪問支援チーム員会議：4回 （定例4回） 令和7年度新規対象者：2件	・認知症訪問支援事業チーム員会議を隔月開催。支援対象者を医療介護等の支援につながるよう専門職による検討を行った。
24	認知症等行方不明SOSネットワーク事業	高齢・障害課	地域包括支援センター 警察署	区内発生件数：2件（解決済）	区内発生件数：1件（解決済）	・区内で発生した場合に庁内等関係機関で情報共有できるように、区社会福祉協議会、保護課、地域支援課、地域ケア推進課に情報提供を行った。
25	地域で子育てを支える取組	保育所等・地域連携担当 地域支援課	保育所 地域子育て支援センター	はじめてのババママ 3回開催 （Ⅰ期）34組69人参加 （Ⅱ期）41組85人参加 にこにっこ 2回開催 （Ⅰ期）14組28人参加 （Ⅱ期）9組18人参加 サロンへの訪問 8回 こんにちは赤ちゃん訪問 90件	はじめてのババママ 3回開催 （Ⅰ期）20組40人参加 （Ⅱ期）24組48人参加 （Ⅲ期）30組62人参加 にこにっこ 2回開催 （Ⅰ期）11組22人参加 （Ⅱ期）7組14人参加 こんにちは赤ちゃん訪問 74件	・「はじめてのババ&ママ」3回連続講座 地域子育て支援センターみなみゆりがおかにて栄養士、保育士、看護師の講座を実施。参加者同士の懇談を行った。 ・「にこにっこ」父親の育児講座 地域子育て支援センターみなみゆりがおかにて土曜日に実施。保育士による遊びの紹介。父親同士の懇談が好評だった。「にこにっこ」が初めて地域子育て支援センター利用の父親が多く、イベントを機に来所につながる方も多かった。 ・育児不安や孤立の軽減、地域とのつながりがもてるよう訪問を実施した。 ・令和7年度の新規登録訪問員は4人。訪問員のスキルアップのための研修1回と連絡会を1回実施した。
26	大学と連携した子ども・子育て支援事業	地域ケア推進課 保育所等・地域連携担当 生涯学習支援課	区内大学	小学生向け支援事業 4大学 未就学児親子向け支援事業 2大学	小学生向け支援事業 4大学 未就学児親子向け支援事業 2大学 中高生向け支援事業 1大学	・日本映画大学と連携し、こども映画大学を8月に実施。体験学習に22人の参加、上映会に家族等85人の参加があった。 ・昭和音楽大学と連携し、区内小学生を対象とした「交流コンサート」を11月に実施した。81人の親子が応募し、音楽を通じた学生との交流を楽しんだ。 ・4歳以上の子どもと家族を対象とした「昭和音楽大学ファミリー定期演奏会」を実施。午前と午後合わせて1000人以上の一般来場者があり、多くの区内在住者が参加した。 ・玉川大学と連携し、乳幼児の保護者・妊娠中の方を対象としたオンライン講座を12月に、区内小学生を対象とした体験学習を1月に実施した。講座に28人の参加、体験学習に21組42人の参加があった。 ・田園調布学園大学にて未就学児親子を対象に「キッズアート」を9月に開催。大学講師と学生、地域親子と一緒に彫塑粘土を使った表現あそびを行った。23組参加した。 ・田園調布学園大学にて未就学時親子を対象に「けろけろ田園チャイルド」を10月に実施。民間保育所保育士、大学講師・学生と一緒に遊びの会を行った。16組参加した。 ・地域ケア推進課と連携して、玉川大学の2人の教授と共にオンライン講座「赤ちゃん学」を実施。区外からの参加も可とし、幅広い地域の子育て世帯の方に参加いただいた。申込49人、参加28人 ・小学生とその保護者を対象に、恩廻公園調整池で「鶴見川の生物&地下の冒険」（7/25 参加44人）を、和光大学で「動くスライム理科実験&大学キャンパス探検」（7/29 参加44人）を実施した。 ・中学生高校生を対象に、「アニメ・漫画で学問する！」をテーマに、和光大学の教員による講座を岡上分館で実施した。（参加15人） ・岡上地域の町内会が主催する「おかがみふれあいまつり」にあわせて、岡上分館内で和光大学（教員と学生）の協力により理科実験の体験会を実施した。（3/21 2回実施 参加計50人）

取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	数値で把握することが可能な取組結果（R7）	令和7年度取組内容の実績等
27	麻生区子ども関連ネットワーク会議	地域ケア推進課	子どもに関わる機関・団体	回数：2回 子育てグループ交流会：1回 12人参加	回数：2回 子育てグループ交流会：1回 9人参加	・お互いの活動に関する情報交換や子ども食堂に関する研修会を6月に開催。麻生区社会福祉協議会子育て支援委員会との共催にて講演会を2月に開催。 ・麻生区社会福祉協議会子育て支援委員会との共催で9月に子育て関連グループ交流会を実施し、9人の参加があった。
28	あさお福祉まつり	地域ケア推進課	区社会福祉協議会 福祉活動団体	第35回あさお福祉まつりの実施 参加団体数：63団体 来場者数：約5,600人	第36回あさお福祉まつりの実施 参加団体数：66団体 来場者数：約3,800人	・麻生区社会福祉協議会と共催で「第36回あさお福祉まつり」を11月9日に実施した。
29	あさお子育てフェスタ	生涯学習支援課 地域ケア推進課 企画課 地域支援課 保育所等・地域連携担当	子どもに関わる機関・団体 民生委員児童委員協議会	来場者数：約1,000人 参加団体数：25団体	来場者数：約1,200人 参加団体数：25団体	・子育て世代のための情報提供や親子のふれあいの場として、地域の子育て支援団体等が参加・協力し、3月20日（金・祝）に開催した。 ・あさお親子体操・管理栄養士による骨づくり講座・保健師による骨密度測定を1セットとし、3回実施。 ・雨だったが、乳幼児がゆったり遊ぶ場として活用していただけた。 家庭ではなかなかできないあそびができたり、家庭で遊ぶ赤ちゃんのおもちゃの参考になったという方もいた。 麻生区内の保育所にコーナーを持っていただくことで、幼稚園・保育所等の広報にもなった。
30	麻生市民館サークル祭	生涯学習支援課	麻生市民館サークル連絡会	参加サークル数：29サークル 来場者数：約3,100人	参加サークル数：29サークル 来場者数：約3,100人	・サークル活動の1年間の集大成の発表の場、及びサークル・地域間の交流の場として、6月7、8日に開催。市民館の大ホール、大会議室等を利用し活動発表を披露。6月6～11日でギャラリーで美術展を実施した。
31	希望のシナリオ実現に向けた取組	企画課	麻生区ソーシャルデザインセンター	—	—	・NPO法人麻生区ソーシャルデザインセンターとの協働により、地域の課題解決やまちのひろば創出を目的に、講座や講演会を開催するとともに、団体や個人等からの相談受付や「おしゃべりひろば」による交流の場づくり、他区SDCとの交流・情報交換等を行った。
32	麻生市民交流館やまゆりの活用促進	地域振興課	麻生市民交流館やまゆり	市民活動相談窓口の開設：週2回 人材育成講座：全5回（アクティブシニア講座） 市民活動団体交流イベント： ・市民活動団体発表会 1回 参加団体 6団体 ・ピバ！あさおの子どもたち：1回 参加団体 7団体 麻生区地域コミュニティ活動支援事業：6団体	市民活動相談窓口の開設：週2回 人材育成講座：全5回（アクティブシニア講座） 市民活動団体交流イベント： ・市民活動団体発表会 1回 参加団体 6団体 ・ピバ！あさおの子どもたち：1回 参加団体 7団体 麻生区地域コミュニティ活動支援事業：5団体	・相談窓口や情報紙「やまゆりニュース」（6・10・2月）、「あさおふれんず」（4・8・12月）の発行により、主に麻生区内の市民活動情報の提供、発信を行った。 ・区民の地域参加を支援するため、定年退職者等を対象とした人材養成講座「アクティブシニア講座」を行った。 ・市民活動団体、区民の交流を促すため、「ピバ！あさおの子どもたち」や「市民活動団体発表会」を開催した。 ・新たなコミュニティづくりにつながる事業を申請した5団体に対して助成を行った。
33	地域の防災活動支援	危機管理担当	町会・自治会 自主防災組織	防災資器材購入補助金：申請38件 自主防災活動助成金：36件	防災資器材購入補助金：申請39件 自主防災活動助成金：58件	・各自自主防災組織が災害に備えるために調達する防災資器材購入補助金の交付や、自主防災組織の訓練に対する自主防災組織活動助成金を通じた活動支援を行った。
34	区民の防災意識・防災スキルの向上	危機管理担当	町会・自治会 自主防災組織	総合防災訓練実施回数：2回 区民防災塾の開催：1回 避難所運営会議の開催：24か所 地域における自主防災組織の訓練の実施回数：51回 ぼうさい出前講座：29回	総合防災訓練実施回数：2回 区民防災塾の開催：1回 避難所運営会議の開催：25か所 地域における自主防災組織の訓練の実施回数：68回 ぼうさい出前講座：45回	・第1回麻生区総合防災訓練は、避難所を利用した宿泊訓練を実施したいという地域からの要望を元に、11月15日から16日にかけて南百合丘小学校で避難所宿泊体験訓練を実施。麻生区内全ての自主防災組織にも一部訓練への参加を可能として大規模に実施した。避難所開設訓練では、主に地域の自主防災組織を対象に避難所でのトイレ対策訓練を中心とした避難所開設訓練を実施し、誰でも避難所でのトイレが開設できるよう、避難所開設初動時に行うトイレの準備作業、運用方法、掲示物等を記載したマニュアル「災害時のトイレ対策アクションカード」を用いた訓練を実施した。避難所宿泊訓練では、御家族等を対象に避難所となる体育館にて避難所宿泊訓練を実施した。 ・第2回麻生区総合防災訓練は、市が実施していた「備えるフェスタ」と合同開催し、12月6日に新百合ヶ丘駅南口ペDESTリアンデッキとミスノフトサルブラザ新百合ヶ丘で実施した。在宅避難に必要なトイレ対策の普及・啓発をテーマに、楽しみながら防災を学ぶコーナー等も多数設置し、普段防災に関心の少ない市民をターゲットに防災啓発を行った。トイレ関連の訓練に多くの方を参加させることができたため、災害時のトイレの重要性について多くの方に知ってもらうことができた。 ・区内25か所の全ての指定避難所で開催される避難所運営会議では、これまでの会議形式ではなく実働訓練とし、避難所開設、運営訓練を実施した。 ・地域で実施される自主防災組織による訓練の実施回数は、訓練実施届の件数が68件あった。うち58件が助成金の申請を行っている。 ・「ぼうさい出前講座」では、住民の集会等に区の危機管理担当が参加し、災害時のトイレ問題を中心に小学生から高齢者まで幅広い年齢層に防災知識の普及啓発を行った。
35	災害時要援護者避難支援制度	危機管理担当 高齢・障害課 地域ケア推進課	町会・自治会 自主防災組織 民生委員児童委員協議会	災害時要援護者避難支援制度 登録者数：589人 内、新規登録：70件 （障害者25件、高齢者45件） 6地区民生委員児童委員協議会合同災害委員会：4回 地区民生委員児童委員協議会内で意見交換：2～3回／6地区	災害時要援護者避難支援制度 登録者数：512人 内、新規登録：39件 （高齢者29件（うち障害者7件）、その他10件） 6地区民生委員児童委員協議会合同災害委員会：1回 地区民生委員児童委員協議会内で意見交換：2～3回／6地区	・二次避難施設連絡会議を令和8年2月19日に開催。 令和7年9月に6地区民生委員児童委員協議会合同災害委員会を開催し、自主防災組織の現状と課題について情報共有した。

取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	数値で把握することが可能な取組結果（R7）	令和7年度取組内容の実績等
36	災害時個別避難計画の作成支援	高齢・障害課	居宅介護支援事業所 障害者施設等 相談支援事業所	区役所作成：31件 相談支援事業所作成：57件	区役所作成：53件 相談支援事業所作成：94件	・自ら避難する事が難しい障害者等が安全に行動できる具体的な避難方法を検討し、避難先での配慮事項を一緒に考えるため家庭訪問や施設訪問し、災害時個別避難計画を作成した。また、計画相談事業所が災害時個別避難計画を作成する際に助言・指導する伴走支援も実施した。
37	防犯への対応力の強化	危機管理担当	警察署 麻生区安全・安心まちづくり協議会	防犯研修会の開催：2回 スポーツ防犯教室の開催：2回 麻生セーフティメール 配信数63件 登録者数6393人 わんわんパトロール登録者数221人	防犯研修会の開催：1回 スポーツ防犯教室の開催：2回 麻生セーフティメール 配信数41件 登録者数6427人 わんわんパトロール登録者数245人	・警察と連携した防犯研修会や小学生を対象としたスポーツ防犯教室を開催するとともに、わんわんパトロール事業を通じた個人の防犯見守り活動の支援を行うことで防犯意識の醸成に向けた取組を行った。 ・麻生区で発生した犯罪・災害・交通事故などの身近な情報を発信し安全・安心意識の醸成に向けて取組を行った。 ・麻生区内の防犯・防火・防災等の情報を地域が共有できるよう麻生セーフティメールを配信した。 ・区民からの防犯カメラ・防犯灯の修繕・迷惑電話防止対策等の相談に対応した。
38	ひとり暮らし等高齢者見守り事業	高齢・障害課	民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター	見守り対象者：25人	見守り対象者：46人	・令和7年度の調査対象者は約1,280人ほど。12月に民生委員児童委員協議会に事業説明し、今年度のスケジュールをお伝えし、見守り対象者を選定した。 ・地域包括支援センター連絡会議にて見守り対象者リストを共有し、対象者の確認を行った。
39	地域福祉の担い手による地域情報交換会	地域ケア推進課 地域支援課	民生委員児童委員協議会 町会・自治会 地域包括支援センター 区社会福祉協議会	地域情報交換会の実施 6回（地域みまもり支援センター・民生委員児童委員協議会主体） 地域情報交換会の実施 1回（地域みまもり支援センター主体）	地域情報交換会の実施 5回（地域みまもり支援センター・民生委員児童委員協議会主体）	・民生委員児童委員と町会・自治会、地域包括支援センター、社会福祉協議会等が意見交換を行う「地域情報交換会」を、各地区民児協と共催した。地域情報交換会を通じて、地域の関係者がお互いの活動を理解し合うとともに、地域資源の共有や地域課題に対する認識の共有が図られた。
40	地域の生活支援コーディネーターと連携した地域づくり	地域ケア推進課 地域支援課	生活支援コーディネーター	—	—	・地域情報交換会やあさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議を通じて、町内会等、他団体との交流の機会を創出した。 ・生活支援コーディネーター主催の会議等に出席し、地域情報の共有と地域の主体との連携を促した。
41	麻生区高齢者見守りネットワーク事業	高齢・障害課	協力事業者 地域包括支援センター 民生委員児童委員協議会	通報件数：15件 協力事業所：28業者 情報交換会：2回	通報件数：18件 協力事業所：30業者 情報交換会開催：1回	・協力事業者及び関係機関（民生委員、地域包括支援センター、警察、消防など）との情報共有及び連携強化を図り、事業を円滑に運営することを目的とする情報交換会を9月に実施した。令和7年度は新たに2事業所が加入した。
42	川崎市地域見守りネットワーク事業	地域ケア推進課	協力事業者 地域包括支援センター 民生委員児童委員協議会	通報件数：4件	通報件数：1件	・協力民間事業者からの通報を受け、対象者の安否確認等必要な対応を行った。
43	町会・自治会への活動支援	地域振興課	町会・自治会	町会・自治会ガイドブック：6,000部発行 町内会・自治会活動応援補助金：77町内会・自治会から申請 麻生区町会連合会の研修・勉強会：3回 町会長・自治会長会議：1回	町会・自治会ガイドブック：4,000部 町内会・自治会活動応援補助金：65町内会・自治会から申請 麻生区町会連合会の研修・勉強会：4回 町会長・自治会長会議：1回	・町内会・自治会活動応援補助金について、説明会を6月に2回開催するとともに、随時個別相談、町内会・自治会への訪問説明を行った。なお、町会長・自治会長のライフスタイルに配慮し、2回の説明会のうち1回を夜間に開催した。 ・麻生区町会連合会の事務局として、町内会・自治会活動の活性化のための研修会・勉強会開催の補助を行った。5月に町内会・自治会の活動取組事例等を議題として、「新任町会長・自治会長研修」を実施した。11月に「勉強会」を開催し臨海部を視察し、臨海部の重要性を理解した。12月には町連加入町会を対象に「デジタル化支援研修会」を開催し、町会・自治会業務のデジタル化の必要性や有効性を確認し、課題を共有した。更に、2月に「視察研修会」を開催し小田原市職員から施策や地域資源活用に係る講義を受講し、3月に「町会長・自治会長会議」を開催し個人情報保護に関する講義等を受講した。
44	民生委員児童委員協議会への活動支援	地域ケア推進課	民生委員児童委員協議会 区社会福祉協議会	地区民生委員児童委員協議会：月1回／6地区、地域情報交換会：6回（再掲）	地区民生委員児童委員協議会：月1回／6地区 地域情報交換会：5回（再掲）	・区内6地区にある民生委員児童委員協議会の運営を支援した。一部の民生委員児童委員協議会で実施した地域情報交換会の運営を支援した。
45	福祉関係団体への活動支援	地域ケア推進課	日本赤十字社 保護司会	総会・定例会等開催回数 保護司会：10回 遺族会：3回 赤十字奉仕団：2回	総会・定例会開催回数 保護司会：8回 遺族会：4回 赤十字奉仕団：3回	・各種団体の事務局として、総会や定例会の運営補助（会場準備・開催案内送付・出席者集約・資料作成・印刷・外部関連機関への報告等）を行った。また必要に応じて会へ出席し、区からの情報提供を行うとともに、各種啓発イベントに協力するなど、関係団体と密に連携しながら活動支援を行った。

取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	数値で把握することが可能な取組結果（R7）	令和7年度取組内容の実績等
46	地域包括支援センターとの連携	高齢・障害課 地域支援課	地域包括支援センター	地域包括支援センター運営協議会：年2回 地域包括支援センター連絡会議：月1回 高齢者支援カンファレンス：月1回	地域包括支援センター運営協議会：年2回 地域包括支援センター連絡会議：月1回 高齢者支援カンファレンス：月1回	・地域包括支援センター運営協議会を2回開催した。（11、3月） ・地域包括支援センター連絡会議を月1回開催し、包括の業務に関する情報共有や検討を行っている。 ・区独自に毎月高齢者支援カンファレンスを開催している。様々な支援者、専門職による事例検討を通じて、顔の見える関係の構築と個別支援のスキルアップに取り組んだ。 ・地域包括支援センター連絡会議に出席し、情報共有や連携強化を行った。 ・高齢者支援カンファレンスに参加し、地域の高齢者支援について関係機関と検討を行った。
47	麻生区地域自立支援協議会との連携	高齢・障害課	障害者相談支援センター	企画運営会議：月1回	企画運営会議：月1回 課題活動整理部会：月1回 定例会：年2回	・定例会では、これまで地域で移送サービスを実施してきた2つの事業所にこれまでの活動や課題について説明してもらい、地域課題を参加者と共有した。また、GWで意見交換を行い、ピアサポーターの活用やボランティア講座、移送サービスについての周知活動等、協議会でできることの意見を募ることができた。当事者の方が1人参加し、意見聴取できた。 ・課題活動整理部会の中で、「課題整理シート」を作成し、課題を可視化した。その中で、移動支援について地域の実情を確認することとし、麻生区社協に福祉有償運送や事業全般の説明をしてもらったり、定例会で移送サービスについて取り上げたりした。また、区内生活介護事業所（9事業所）に送迎に関するアンケート調査を実施し、送迎対応の人員確保に苦慮している実態を確認した。
48	麻生区社会福祉協議会との連携	地域ケア推進課	区社会福祉協議会 地区社会福祉協議会	—	—	以下の内容について、相互の取組に参画し、麻生区社会福祉協議会との連携強化を図った。 ・麻生区社会福祉協議会が主催する各種委員会に委員として参加し、情報共有した。 ・麻生区社会福祉協議会の事業に広報に協力した。（民生委員児童委員活動強化月間における横断幕・懸垂幕掲示）
49	麻生区在宅療養推進協議会との連携	高齢・障害課	区医師会 麻生区介護支援専門員連絡会	区民向けシンポジウム：年1回 参加約200人	市民向けフォーラム：年1回 参加約200人	・麻生区在宅療養推進協議会（麻生区医師会）が3月14日（土）に市民向けフォーラムを実施。会場予約や市政だよりへの掲載等について協力した。
50	民間資源を活かした地域福祉活動の推進	地域ケア推進課 地域支援課	社会福祉法人 民間企業 独立行政法人	—	【再掲】 あさおの保健室：6回333人 公開講座「ロングライフコンディショニング」：4回105人 地域の催しでの健康測定会等：4回258人	【再掲】長寿日本一記念事業として、麻生区内スポーツ関連施設5か所と連携して健康づくりに関する普及啓発を実施した。施設のスペースを使い、健康チェックやその結果に応じた健康相談・情報提供を行う「あさおの保健室」を6回、スポーツジムのインストラクターによる公開講座「ロングライフコンディショニング」を3回実施したほか、麻生区健康情報ポスターを毎月発行し、施設内に掲示し情報発信した。
51	地域包括ケアに関する会議	地域ケア推進課 地域支援課 高齢・障害課	町会・自治会 区社会福祉協議会 民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター	あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議：3回 相談支援・ケアマネジメント推進委員会 3回実施	あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議：3回 相談支援・ケアマネジメント推進委員会 3回実施	・関連団体、学識経験者、公募市民による、あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議を行い、意見交換を実施した。 ・包括が主催する調整会議やケアマネ連絡会主催の幹事会、地域包括支援センターとケアマネ連絡会で共催する研修等についての年間計画を作成した。 ・地域ケア会議等で把握された地域課題や課題解決への取組、区内で実施している高齢者に関する多様な取組について区課題整理シートに掲載し、適宜更新を行った。他の主体とも連携して課題解決に取り組んだ。

第7期各区地域福祉計画（令和6～8年度）における評価に係る考え方について

1 評価の目的

年度ごとに施策ごとの実施状況や計画の達成状況を把握し、取組の総括を行うとともに、次年度事業の改訂の必要性の要否を検討、必要な対策を講じることを目的に評価を行います。また、計画の評価に際して、住民による継続した地域福祉活動への動機付けとなることを重視して評価を行います。

2 評価方法

(1) 重点的な取組

各区地域福祉計画の階層において「基本方針・施策」を記入する。

※「基本方針・施策」とシートに記載欄はありませんが、区地域福祉計画に記載している具体的な取組を PDCA サイクルの P（計画）と捉えてください。

(2) 取組状況

数値で事業の実績・効果等を把握できる重点的な事業を抽出する。

（例えば、事業回数、参加者数（延べ数）、登録者数など実績を入力する）

(3) 取組状況に対する評価

取組状況を加味しながら、重点的な取組・方針の達成状況を記入してください。また、評価に際しては、結果や成果のみならず、プロセスとして工夫したことの有無、効果（地域住民の意識や行動の変化・関係機関との連携による影響など）も入れて総合的に評価してください。

(4) 事業の達成度

次の考え方を参考にしながら、達成度を入れてください。

達成度	総合計画の指標	区地域福祉計画における評価の考え方
1	目標を大きく上回って達成	プロセスとして創意工夫したことがあり、効果も大きいと判断される場合
2	目標を上回って達成	
3	目標をほぼ達成	プロセスとして創意工夫したことがある又は効果が一定程度評価できる場合
4	目標を下回った	プロセスとして創意工夫した点がなく、効果も評価できない場合
5	目標を大きく下回った	

【留意事項】

ア 市民の活動を取り上げている場合は、行政として適切に支援を実施したかという点に重きを置いて評価してください。ただし、市民活動の主体自らが、何らかの手段で自己評価できる場合は、その内容を「取組状況に対する評価」欄に記入した上で、総合的に評価してください（例えば、実行委員会形式での反省会・講評、アンケート他）。

イ 総合計画の区課題事業に掲載されている事業と同じ内容であれば、できるかぎりそれに倣って評価してください。

(5) 特筆すべき取組を含めた総評

総評を記入するとともに、次年度に向けて改善点があれば記入してください。

第7期 麻生区地域福祉計画(令和6～8年度)・令和7年度評価

重点的な取組		令和7年度取組状況	取組状況に対する評価	事業の達成度	【参考】令和6年度取組状況
1	地域活動の参加につながる取組の推進	《地域活動に関わる人材の発掘と育成》 ・認知症サポーター養成講座:22回、755人 ・すくすく子育てボランティア養成教室:修了者6人 ・すくすくボランティア活動参加者:延べ186人 ・健康づくりボランティア養成教室:修了者10人 ・食生活改善推進員養成教室:修了者11人 ・シニアの社会参加支援:5回 54人 ・市民エンパワーメント研修:3回 75人 ・識字ボランティア研修:昼夜各1回 23人 ・市民自主学級「愉しもう！新しいご隠居スタイル」:10回 111人 ・高齢者も楽しく暮らすために:3回 77人 ・相談窓口検索サイト担当者会議:1回開催 《地域活動参加につなげる「ちいきのちからシート」の活用》 ・「ちいきのちからシート」実施回数:1回 《学生ボランティア活動の促進》 ・学生ボランティアに関する講義:3回 ・学生ボランティアマッチング数:69件	多様な講座や交流機会の提供により、ボランティア活動への参加促進と継続的な人材育成を推進することができた。また、シニアの社会参加支援や学生への福祉教育等を通じて、地域全体の福祉意識の向上を働きかけるとともに、活動のさらなる活性化につなげることもできた。 ・健康づくりボランティアと食生活改善推進員養成教室を合同で実施した。実際にボランティアとして活動している人との交流場面を設定する事で、活動参加のきっかけとなるよう改善した。また、継続的な育成として、学習会において転倒予防等に関する情報提供を行った。 ・麻生市民館では、シニアの社会参加支援や交流促進に資する講座を実施し、認知機能低下予防や地域活動の選択肢を提示した。また、ボードゲームを活用した人材育成と活動支援により、世代を超えた地域交流の活性化を図った。 ・相談窓口検索サイト担当者会議を、検索サイトの向上・充実に向けて実施した。 ・田園調布学園大学の授業内で認知症サポーター養成講座や行政社会福祉職講義、地域の福祉活動についての講義を通じて、地域におけるボランティア活動の意義を伝え、学生の福祉マインドの醸成に寄与した。	3 目標をほぼ達成	《地域活動に関わる人材の発掘と育成》 ・認知症サポーター養成講座:19回、710人 ・すくすくボランティア活動参加者:延べ167人 ・健康づくりボランティア養成教室:修了者10人 ・食生活改善推進員養成教室:修了者10人 ・シニアの社会参加支援:5回 52人 ・市民エンパワーメント研修:4回 21人 ・識字ボランティア研修:10回 157人 ・市民自主学級「新しい！ご隠居スタイル」:10回 275人 《地域活動参加につなげる「ちいきのちからシート」の活用》 ・「ちいきのちからシート」実施回数:1回 《学生ボランティア活動の促進》 ・学生ボランティアに関する講義:3回 ・学生ボランティアマッチング数:52件
2	保健福祉に関する情報発信の充実	《様々な媒体を用いた保健福祉に関する情報発信》 ・市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信:93件 ・麻生区役所企画課Xアカウントにおける保健福祉情報の発信:171件 《子育て情報の発信》 ・きゅっとハグあさお発行部数:4,300部 ・母子健康手帳交付時の情報提供 妊娠届出数:1,098人 ・直営健診実施時の情報提供 1歳6か月児及び3歳児健康診査受診数:2,063人 ・地域包括ケアシステム講演会の開催:約150人	イベントや窓口、メール配信等を通じて保健福祉・子育てに関わる情報を多面的に発信した。特に各種事業や健診の機会を活用し、対象者に適切な情報提供を行うことで、継続的かつ効果的な周知を図ることができた。 ・「長寿日本ーその先へー」の企画では、区民まつりや福祉まつりでブースを設置し、自己肯定感を考えるきっかけとして「自分自慢」について意見を募集し、併せて保健福祉に関する情報を提供した。 ・希望のあった保護者に対して、子育てに関するおたよりや地域のイベント情報をメールで発信した。 ・母子健康手帳交付時は、「きゅっとハグあさお」「かわさき子育てガイドブック」その他の妊娠出産育児に関するガイドブック等を配布。また「かわさき子育てアプリ」を紹介した。 ・1歳6か月児健診では、食事・運動と公立保育園・地域子育て支援センターの情報、かわさき子育てアプリを紹介。3歳児健診では、食事・運動の子育て情報を紹介した。 ・あさおSDCと共催で若者の居場所と本音について当事者等が語る講演会を開催した。	3 目標をほぼ達成	《様々な媒体を用いた保健福祉に関する情報発信》 ・市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信:86件 ・麻生区役所企画課Xアカウントにおける保健福祉情報の発信:172件 《子育て情報の発信》 ・きゅっとハグあさお発行部数:5,000部 ・ちびっこおでかけMAP発行部数:11,000部 ・母子健康手帳交付時の情報提供 妊娠届出数:1,039人 ・直営健診実施時の情報提供 1歳6か月児及び3歳児健康診査受診数:1,874人
3	認知症にやさしいまちづくりの推進	《認知症に関する普及啓発》 ・あさおオレンジプロジェクト:3回 ・そなえる認知症I(講演会):22人 ・そなえる認知症II(講演会):24人 ・麻生図書館・柿生分館パネル展示:2回 ・南百合丘小学校図書室展示:1回 ・認知症サポーター養成講座22回(再掲) ・RUNTOMO+あさお実行委員会へ出席:9回 ・キャラバン・メイト連絡会:2回 ・認知症にやさしいまち表彰:3店舗 ・認知症フォローアップ講座:1回 《認知症訪問支援事業》 ・認知症訪問支援チーム会議:4回(定例4回) ・令和7年度新規対象者:2件 《認知症等行方不明SOSネットワーク事業》 ・区内発生件数:1件	認知症理解の促進に向け、展示や講座の実施により市民への普及啓発を進めるとともに、専門職による検討体制の充実や関係機関との情報共有を通じて、地域における支援体制の推進に取り組むことができた。 ・キャラバン・メイト連絡会を実施し、市内キャラバン・メイトへの情報提供及び認知症サポーター養成講座開催に向けての情報交換、キャラバン・メイトの活動の活性化に向けて話し合いを行った。 ・図書館(麻生図書館、柿生分館)、図書室(南百合丘小)での展示により、市民に対し、認知症の方への理解を進めた。 ・市民向け認知症サポーター養成講座のフォロー講座を開催した。・認知症訪問支援事業チーム委員会を隔月開催し、支援対象者を医療介護等の支援につながるよう専門職による検討を行った。 ・区内で発生した場合に庁内等関係機関で情報共有できるように、区社会福祉協議会、保護課、地域支援課、地域ケア推進課に情報提供を行った。	3 目標をほぼ達成	《認知症に関する普及啓発》 ・あさおオレンジプロジェクト:3回 ・そなえる認知症I(講演会):39人 ・そなえる認知症II(講演会):46人 ・麻生図書館・柿生分館パネル展示:2回 ・百合丘小学校図書室展示:1回 ・認知症サポーター養成講座17回(再掲) ・RUNTOMO+あさお実行委員会へ出席:9回 ・キャラバン・メイト連絡会:2回 ・認知症にやさしいまち表彰:9店舗 ・認知症フォローアップ講座:1回 《認知症訪問支援事業》 ・認知症訪問支援チーム会議:7回(定例6回、臨時1回) ・令和6年度新規対象者:5件 《認知症等行方不明SOSネットワーク事業》 ・区内発生件数:2件
4	地域における見守り力の向上	《ひとり暮らし等高齢者見守り事業》 ・見守り対象者:46人 《地域福祉の担い手による地域情報交換会》 ・地域情報交換会の実施 5回 《麻生区高齢者見守りネットワーク事業》 ・通報件数:18件 ・協力事業所:30業者 ・情報交換会:1回 《川崎市地域みまもりネットワーク事業》 ・通報件数:1件	民生委員児童委員や町内会自治会、地域包括支援センター、社会福祉協議会、地域の企業等、地域に関わる団体・機関等、多様な主体の情報交換の機会を設けることにより、地域全体での地域課題の共有と見守り体制の強化を図ることができた。 ・ひとり暮らし等高齢者見守り事業として、見守り対象者を選定するとともに、地域包括支援センター連絡会議でリストを共有した。 ・民生委員児童委員と町会・自治会、地域包括支援センター、社会福祉協議会等が意見交換を行う「地域情報交換会」を、各地区民児協と共催した。地域の関係者がお互いの活動を理解し合うとともに、地域資源の共有や地域課題に対する認識の共有が図られた。 ・麻生区高齢者見守りネットワーク事業では、協力事業者及び関係機関(民生委員、地域包括支援センター、警察、消防など)との情報共有及び連携強化を図り、事業を円滑に運営することを目的とする情報交換会を実施した。令和7年度は新たに2事業所が加入した。	3 目標をほぼ達成	《ひとり暮らし等高齢者見守り事業》 ・見守り対象者:25人 《地域福祉の担い手による地域情報交換会》 ・地域情報交換会の実施 6回 ・(地域みまもり支援センター・民生委員児童委員協議会主体) ・地域情報交換会の実施 1回(地域みまもり支援センター主体) 《麻生区高齢者見守りネットワーク事業》 ・通報件数:13件 ・協力事業所:28業者 ・情報交換会:2回 《川崎市地域みまもりネットワーク事業》 ・通報件数:4件

特筆すべき取組を含めた総評(令和6～8年度)令和7年度

多様な講座の実施や情報発信、関係機関との連携等により、人材育成や福祉意識の向上、見守り体制の強化が図られ、地域における支え合いの基盤づくりは着実に進んでいる。また、地域活動もコロナ禍から回復し、長寿日本ーを機に健康づくりや介護予防への意識の広がりが見られる。

一方で、地域活動の担い手不足や、ひとり暮らし高齢者の増加、複合的な課題を抱える家庭の増加などにより、地域課題は一層複雑化・多様化しており、AIの台頭など、社会環境の変化も進んでいる。こうした状況を踏まえ、持続可能な地域包括ケアシステムの実現に向けて、福祉意識の醸成を基盤とした支え合いの仕組みづくりを引き続き推進するとともに、地域人材の育成や多様な主体との連携の強化を図り、誰一人取り残さない地域づくりを進めていく必要がある。

第7期麻生区地域福祉計画の振り返り（令和6・7年度）

基本目標1 区民が主役の地域づくり

- ・健康づくりや介護予防の講座、長寿日本一のPRイベントなど、さまざまな機会を活用し、区民一人ひとりが主体的に地域に関わる意識を高めました。
- ・地域活動への参加環境が回復する中、防災をはじめとした分野で、区民主体の地域活動が各所で再開されていますが、働き方の変化等により地域の担い手が減少しています。

重点項目1 地域活動の参加につながる取組の推進

【活動指標】麻生区が実施するボランティア養成講座等の参加者

目標 85 人/年（R6～8 平均） 実績：R6 113 人、R7 130 人

【実感指標】地域活動やボランティア活動に「参加したことがない」と回答した人の割合

目標とする方向性 前回 R4 年度調査 33.4%からの減少 R7 年度結果 35.1%

基本目標2 区民本位の福祉サービスの提供

- ・市政だよりやホームページ、SNS 等を活用し、利用者のニーズに即した情報を幅広く届けました。
- ・情報発信手段は多様化している一方で、情報量の増加やデジタル機器の利用経験の差により、必要な情報が届きにくい状況があります。

重点項目2 保健福祉に関する情報発信の充実

【活動指標】市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信

目標 82 件/年（R6～8 平均） 実績：R6 86 件、R7 93 件

麻生区役所企画課 X アカウントにおける保健福祉情報の発信

目標 150 件/年（R6～8 平均） 実績：R6 172 件、R7 171 件

【実感指標】保健や福祉の情報の入手先について、「市の広報」と回答した人の割合

目標とする方向性 前回 R4 年度調査 56.3%からの上昇 ⇒ 結果 54.8%

保健や福祉の情報の入手先について、「インターネットのホームページ」と回答した人の割合

目標とする方向性 前回 R4 年度調査 27.8%からの上昇 ⇒ 結果 24.3%

基本目標3 「ひと・もの・場」をつなぐ自助・互助の仕組みづくり

- ・地域情報交換会等、区民、福祉関係団体、行政など多様な主体による情報共有の場を通じて、地域における支え合いの輪は着実に広がっています。
- ・ひとり暮らしや認知症の人等、見守りが必要な家庭の増加が顕著となっており、地域の人・もの・場をつなぐネットワークの重要性は一層高まっています。

重点項目3 認知症にやさしいまちづくりの推進

【活動指標】認知症サポーター養成講座の受講者数

目標：650 人/年（R6～8 平均） 実績：R6 710 人、R7 755 人

重点項目4 地域における見守り力の向上

【活動指標】地域福祉の担い手による地域情報交換会

目標：6 回/年（R6～8 平均） 実績：R6 7 回、R7 5 回

麻生区見守りネットワーク事業における協力事業者数

目標：R8 までに 31 事業者 R7 30 事業者